

井上社長 藍綬褒章受章

Koyo Seiko President H. Inoue Receives Blue Ribbon Medal

当社の取締役社長井上博司が2000年春の国家褒章で藍綬褒章を受章した。藍綬褒章は、産業振興に顕著な功績をあげた人に日本政府から贈られるものである。

同氏は、1980年以来、当社の取締役の任にあるとともに、経理・財務部門を担当、その後常務取締役時代にはさらに海外営業部門を、専務取締役時代には全管理部門を執行、その後、取締役副社長をへて、1995年からは会社経営の最高責任者としての社長職を通じて、一途に産業の振興に寄与してきたことが今回評価された。

軸受は、機械部品として欠くことができない要素部品であることから、産業のコメとも称されており、井上社長は、軸受産業の重要性を深く認識し、日本国内のみならず世界での軸受産業の基盤確立と発展に尽力してきた。

同氏は、社内外における軸受工場の生産効率化をすすめるとともに、製品品質と信頼性の向上に取り組む一方、他方原価改善を行って国際競争力を高め、また顧客の新たなニーズに対応した世界初のセラミック軸受等の高機能品、ユニット品の開発と商品展開を進めることにより、世界の自動車、機械等各産業の発展に貢献してきた。

そして、米国、英国、タイ、中国での軸受工場の設立、ルーマニア国营工場の民営化に伴う資本参加、米国およびオランダでのテクニカル・センターの設立を推進してきた。

井上社長は、日本ベアリング工業会の一員として、欧州ならびに米国ベアリング工業会との交流を積極的に行って、軸受産業の地位向上を図ることに尽力した。



また、自動車の重要システム要素であるステアリングについても、より快適で安全性が求められ、かつ環境・省エネへの視点が增大する中であって、電子制御式や電動式パワーステアリング等先進のステアリングの新しい商品の開発および高度化を図ることにより、産業界をリードしつつ内外の自動車メーカーの要望に応えてきた。

そして、フランスでは日本の自動車部品産業として初めての合弁の成功事例として賞賛を受けたSMI社への資本参加・技術提携を1991年にスタートさせ、その後マレーシア、中国での合弁、ブラジル、アルゼンチンでのステアリング生産さらに、2000年4月からはプジョーとステアリング生産の合弁会社設立に至った。氏は、1999年にはフランス国家功労章も授与されている。

今後、ますます激化するグローバルな技術革新が加速する中、当社は地球環境の保護に関心を注ぎつつ、モノづくりを通じて社会の発展に寄与することを目指している。

